

## 2-2 飛翔流参加のすすめ

### 賢明な私たち

「1-2 社会的状況は私たちに何を感じさせたか」では、私たちの政治的無関心と、「平和問題」や「環境問題」がおしゃべり程度の話題的関心になっていることを述べた。

私たちについて今度は学習・勉強という側面から考えてみたい。ある本が私たちの情景をうまく表しているので長くなるが引用したい。

「勉強に余念のない学生たち。専門課程にそなえて勉強している教養課程の学生、卒業試験ひいては就職にそなえて勉強している専門課程の学生、あるものは大学院入試のために勉強し、それに合格すると研究者として独立するために勉強する。(中略)

そもそもみんな一体いつから、こんなにも学生らしく各々の分に応じて勉強するようになったのか。特に、目下の目的のために必要な勉強だけを要領よくやり終えると足早に『私生活』へと向かう現役の大学生たち。彼らは大学入試だけを目的として何年間も空疎な勉強を強いられてきたはずだ。それなのに、まだ飽きないのでしょうか。一体どんな風にして、これほど醒めた賢明な処世術を身につけたというのだろう。」

このような私たちが私たち自身から抜け出る可能性はどこにあるのだろうか。

### ウロチョロへの誘い

競争社会における自己矛盾ではあるが、ボランティアというものが現れてきている。先述したように、私たちは自由競争社会の中で育ち、そのため自分の利害を第一に優先し、他人より抜きんでる術を追究し、他人を思い

やることさえ見返りを期待したことになっているが、そういった自己中心主義を打破し、閉鎖した空間をひらく可能性を模索し続けているのである。また、生活の安定と享楽の耽溺は、何をすべきかをつかむことができない感覚を絶えず生み出しているのである。その一つのはけ口が阪神大震災のボランティアだったのではないか。

私たちは「貧しく、悲しい被災者を救ってあげよう」と考えるにはシラケすぎている。「自分がいくら頑張っても全体から見ればかが知っている」という無力感があるのが通常である。自分一人の働きで世界を動かそうとは思ってもいるのである。

しかしシラケて参加しないよりも、「いまさらミコシをかつぐのもシンドイけど、二階の張出し窓で高見の見物ちゅうのもイヤミッたらしい、こうなったらミコシの後についてウロチョロするか」というウロチョロ・スタイルが大切である。ボランティアは自分のためになるとか考えてその損益を計算してはじまらない。アホラシイけどヤッテミルンダというノリで充分なのである。

ただし、ボランティアが自己満足で終わる可能性も指摘しておかなければならない。たとえば、被援助者と対等な視点をもつことが大切であるとか、被災者に古着を送って迷惑がられるという問題点もあるのである。

しかし、そういったことは机上ではなく、実際に体験した上で、つまりボランティア活動に飛び込んだ上で考えるべき問題である。

平和問題も自分の身近な体験から考えはじめることができたらいいのではないか。

「あなたも一緒にウロチョロしませんか」

## 第3回総科フレンドシップキャンプ

総合科学部オリエンテーションキャンプ（通称フレキャン）が4月29日、30日の2日間にわたって広島市青少年野外活動センターにおいて行われた。1日目雨、2日目晴れというように、あいにく天候には恵まれなかったが、新入生を歓迎するための様々なイベントが教官、事務の方々、学生の総科に関わる3者によって、繰り広げられた。

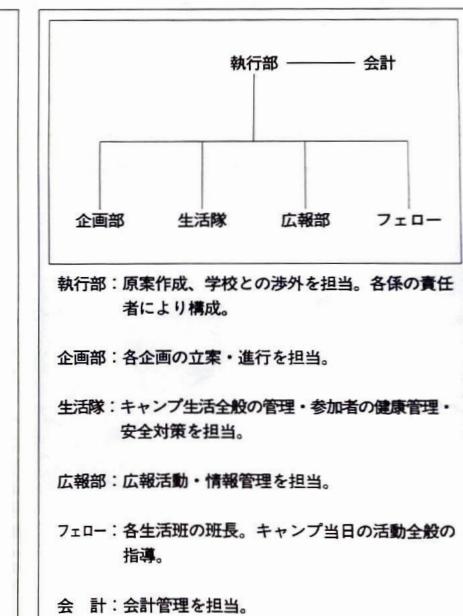
古今東西、洋の東西を問わず、三代目でダメになるという例は多数ある。さてさて、今年で3回目を数えるフレキャンの場合はどうであったのだろうか。



### フレキャンスタッフの組織構成

- |     |   |
|-----|---|
| 12月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフ募集開始</li> <li>・週2回の会議開始</li> <li>・3つの部所(生活、企画、広報)に分かれる</li> <li>・スタッフ親睦会</li> </ul>               |
| 1月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・野活センターラー見（生活）</li> <li>・全学部会議</li> <li>・スタッフジャンパー、フェロージャンパー デザイン開始</li> <li>・フェロー活動開始</li> </ul>      |
| 2月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーション講習会</li> <li>・教官との会議</li> </ul>   |
| 3月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファイヤーリハ</li> <li>・野活センターラー見（企画、広報）</li> <li>・リハーサルキャンプ</li> <li>・ジャンパー完成</li> <li>・キャンプ講習会</li> </ul> |
| 4月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生との顔合わせ</li> <li>・教官との顔合わせ</li> <li>・キャンプ本番</li> </ul>  |
| 5月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンプ反省会</li> <li>・キャンプ写真販売</li> <li>・教官との反省会</li> </ul>   |
| 6月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>⋮</li> </ul>   |

to be continued



## 総科の大イベント

河 原 明 (物質生命科学コース助教授)

オリエンテーションキャンプがフレンドシップキャンプなるものに名前が変わったことは知らなかった。全学対象のキャンプには10年ほど前に一度参加したことがある。これは大イベントである。その時すでに新入生をはじめとするその若さについて行けないと感じた記憶がある。従って、少々憂鬱な気分で今回のキャンプに参加した。昔とくらべて少人数になった事もあり、少し余裕を持って過ごせたのが意外であった(普通は振り回される)。残念ながら初日はひどい雨で、やや寒くもあり、ただひたすら耐える事に専念した。キャンプに参加してもやる事がないというのは実に情けないものだ。特に出番を持つという心境は嫌なものである。最終日になって、さわやかに晴れ渡り、若さの爆発を見る事が出来てほっとした。時節がら、集団のある種の熱というものを感じ、素直に快いということではなかったが、若いエネルギーの発散が好ましかった。これも大イベントであった。これは創作ドラマである。よくもここまで企画し、組織化し、準備したものだと感心してしまった。ただ、しかし、あまりにも細部にまで配慮しつづき、自由なそして自然なふれあいを犠牲にしているように感じた。若い人たちがこのようなイベントでしか共感できないとしたらと思うと少し気がかりではある。若い人には力がある、その力が衰えない前になんのために使うべきか……ということを考えさせられた。念のため、私も若いということを申し添えておく。



## フレキャン裏話

美 桜 陽 子 (学部教務係)

[その1] キャンプ1か月前の事務室にて  
A係長「B君、今度オリキャンに言ってくれんか?」  
B係員「あっ、ちょっと用事が…」  
C主任「B君は去年行つたらんけえ、今年は行つてもらわんとなあ。」  
D係員「そうそう、去年は私が行つたし、その前はEさんが行つたし、あと行ってないのはB君だけだよー。」  
E係員「やっぱり1回は行ったほうがいいよね。」  
F係長「わしながら昔、宮島のオリキャンに5回連続でいったんだぞ。」  
B係員「……」

毎年、キャンプ前になると繰り返される会話である。

[その2] キャンプ2日目のオリエンテーリングにて  
美 桜 (問題がわかんないのばっかりだなー。)

—疲れて最後尾を歩いている。—

問題: 実際にある授業科目はどれでしょう?

- 1.生物物理地学
- 2.生物物理化学
- 3.物理生物地学

学生「みかんさん、みかんさん、どれですか?」

美 桜「んーと、2 よ 2 ! 絶対2つ!!」

学生「よし、2 …と。」

美 桜 (ほっ、やっと役に立てた…)

キャンプに来て良かったと思う一瞬である。

[その3] キャンプ1か月後の事務室にて

美 桜「みんな、キャンプ行くのいやだって言うけど、行ってよかったと思うこともあるんよ。」

E係員「えー、どんなこと?」

美 桜「先生の顔と名前が覚えられるし。」

G係員「そうよねー、先生の顔と名前って事務室にいるだけじゃなかなか覚えられないもんね。」

美 桜「でも、反対に私の顔と名前もしっかり覚えられてしまったのよねー。」

G係員「そういえば、美桜さん最近先生からよく名指しで『掲示』頼まれるようになったよねえ。」

キャンプ1日目の夜、教官約40名を前にしっかりと自己紹介をしてしまった私…。

## 学生座談会

# フレキャンを終えて

我々飛翔編集部は総科フレキャンの実態を探るべく、執行部、企画部、生活隊、広報部、Fellow から、代表者などを集めて1995年6月に座談会を開いた。その中で、総科フレキャンでの様々な問題を明らかにしていくのが我々の主旨である。

### 座談会参加メンバー

進行 長谷川 誠 之 (社会科学コース2年)  
参加者 中川 昇 (数理情報コース4年、学生スタッフ代表)  
吉谷 仁 志 (数理情報コース4年、生活隊ごみ処理担当)  
瀬 尾 亮 (地域文化コース3年、広報部)  
上田 浄 介 (人間文化コース2年、企画部代表)  
佐野 隆 幸 (地域文化コース2年、企画部)  
村田 敏 夫 (地域文化コース2年、広報部代表)  
合田 義 孝 (生体行動コース2年、生活隊代表)  
小野 ゆかり (人間文化コース2年、Fellow)  
佐々木 隆 文 (生体行動コース2年、Fellow)  
野田 忠 幸 (1年)  
三輪 誠一郎 (1年)

### ●スタッフの人数制限は必要ですか? ●

長谷川: 今回のキャンプを準備・運営する中で会議に人が来なかつたりと色々苦労があったと思うんですがどうでした。

中川: 会議のたびに「出席しろ」とか言っていたけど、なかなか出席者は増えなかつたな。

長谷川: キャンプを作り出そうと言うよりも、去年楽しかったから今年も参加しようという意識の人が多くたのでは。

中川: 会議とかは適当にやっておいて1年生と遊んだりするおいしいところだけもらとこっていうやつかな。そういう奴がいると全体の志気が下がるよね。志気を高めたり、意識統一が出来んかった。そこが一番苦労した。

上田: 自分達で作り上げようという意識が足りへんかった。だから、スタッフ会議の出席率も悪かったし、会議での発言も少なかつたですしね。

佐野: それに会議にほとんど出席していないリハキャン(3月末に行われたリハーサルキャンプのこと)やキャンプ当日、何をしていいのか全然分からぬ人も結構いましたよね。

合田: 仕事をうまく割り振ることが出来なくて、やることが無かつたっていうのもあるかもし

れないけど……。

中川: キャンプに対する意識の差があつて、何を言っても聞く耳を持たない。会議に出席しろと言うのを何故言っているのかを理解してくれなかつたら、何度言つてもダメだった。

吉谷: オリキャンも3回やってきてスタッフの数はどんどん増えてる。先生方からは「いろいろな人間が多すぎる。募集の段階で、スタッフは企画何人、広報何人、生活何人、Fellow 何人っていうようにして人数制限を下さい。」って、言われとるし。

佐々木: キャンプを作りたいと楽しみたいとは違うんだから、人数制限するならすればいいってはじめから思つてました。楽しみたいってのは根底にあってもいいけど、作りだそうって意識は絶対に必要なんです。

中川: 人数制限をするとと言うと、1年生から「やる気があるんだからいいじゃないか。」という反論が必ずでてくる。でも、蓋を開けてみれば、会議に出てくるのは一部の人たち。結局、自分がキャンプで楽しむためのやる気はあるってことかな。

小野: やっぱり、なんのためにキャンプをするのかっていう目的がそれぞれ違つてたのが

問題だよね。

吉 谷：1回目のキャンプの時はみんなで何度も何度も何の為にオリキャンをするのか、とか色々話し合ってみんなの意識が高まっていたな。

佐 野：今年はそういった基本的な部分での話し合いがありませんでした。

吉 谷：意識を高めていけば、ただ、楽しみたい人は自然と抜けていくだろうし、人数が減らなくても、みんなの意識がある一定の幅で統一出来るとのならば、スタッフが多いなりのオリキャンが出来るし、先生方に人数制限しろと言われてもねかえしていく。

中 川：人数制限をやるってずっと言ってきたけど、個人的には反対派なんだ。今回のオリキャンもはじめやる気の無かった人が仕事を任せたりしていくうちに積極的になっていったということがあった。そういう人をはじめから切っていいのかっていうと考えてしまう。

吉 谷：だから、まず、みんなでオリキャンはどういうものかとかを話し合ってある程度の方向性が出来てからスタッフを募集していくのがええと思う。

村 田：でも、始めから、企画何人、広報何人、生活何人、Fellow 何人っていう集め方は良くないですよね。

上 田：本当にやる気がある人が出来なくなるのは、きびしいで。

### ●学部行事って？●

三 輪：教官や事務の方がキャンプに参加なさるのは何故ですか？

中 川：キャンプが学部行事だからだよ。

吉 谷：学部からお金が出てるから、学生の負担費用は少なくなっとる。

小 野：学部行事っていう意識を私達はほとんど持てませんよね。

吉 谷：春と秋のソフトボール大会とかもそんなやで。

中 川：学部行事なんだからみんなで作っていこうって意識が必要なんだよ。でも、俺がソフトボール大会とかで常に感じていたのは面倒な運営はあいつらに任せて楽しむところは楽しもうっていう雰囲気なんだ。そういうのが俺はすごく嫌だった。

上 田：J101の掃除にしたってそうですよね。

佐 野：使うだけ使っておいて、掃除は誰かまかせ。

吉 谷：あの部屋は学校側がまだコースに分かれ

てへん1年生に提供している部屋なんや。あて当然のように使っているけど、ちゃんと隠せんと。

上 田：06生の中にもそういうことがわかつてない人らがずいぶんおるよ。

中 川：権利ばかり主張して、義務を果たさないようじゃダメだね。

### ●盛り上げるのに必死の Fellow ●

三 輪：Fellow とスタッフって見ていてあまり差がないように思うんですけど、どうちがうんですか？

村 田：あーよく聞かれるよね。

上 田：一応 Fellow は人(班)をあつかうってことかな。そして、スタッフはキャンプに必要なこと・ものをあつかう。

吉 谷：でも今 Fellow に対して考え方すべきなんやないかな。Fellow はどうあるべきかって、今年 Fellow の中でどれだけ話をしたのかなって思うで。

佐々木：ほとんど話し合わなかったな。

吉 谷：Fellow は班を盛り上げるためだけにいるわけやない。学部行事としてのオリキャンの中に据え付けられた Fellow なんやから「授業なんてさぼっちゃえ」なんてことは絶対こまるんだわ。でも今年はおれの目からみたら盛り上げることに必死だった Fellow が多かったんやないかな。

長谷川：学部行事の代表として、1年生に色々教えていく立場にある Fellow の存在は大きいですね。

上 田：だから Fellow は（1年生と一番接触する機会が多いんだし、）何を伝えなければならないかを考えないといけないかもしれん。例えば、J101 の掃除をするようにと何人の Fellow が言ったかっていうのも問題でしょう。

佐 野：それに去年のキャンプの打ち上げの時、次の日の1コマの英語には絶対できるようって Fellow やスタッフから言われたけど、今



年はほとんどそう言ってるの聞かなかつたね。上 田：やっぱり、Fellow には最低限これだけは1年生に言うといつもらわんといかんことがあると思う。

吉 谷：Fellow だけじゃないけど、今年は意識が足りなかつたから準備期間中すごい危険だと思った。例えば飲酒運転して事故でもしたらキャンプやめようって声がでるからね。首かけるくらいの覚悟がないと1年生を引っ張る人はいけないと思う。そんなことのためにオリキャンが無くなるのは嫌やしね。

佐々木：そこまで考えていたら Fellow 出来ませんでした。

### ●スタッフのお仕事●

瀬 尾：スタッフがみんな真面目にやつとったわけじゃない。

村 田：まあ真面目でないと言えば真面目でない…。

上 田：今まで企画の会議で出席率は低かったのに1年生が入ってからほぼ100%になつたな。

長谷川：オリキャンというのは新入生が来る前と来た後で二つの時期に分かれると思いませんか。第1の時期にきている人はオリキャンを作っていてこうという人だと思うんですけど、第2の時期だけしか来ない人はおいしい所だけとろうという人だと思うんです。

吉 谷：オリキャンを作ろうというよりもただ楽しくやりたいって思ってやってきてる人が多かった。スタッフになればみんなと一緒に何かできると思って、その中で自分から仕事を見つけてやっていこうとすることを知らない人が多かった。オリキャン後のアンケートを見ると「～してほしかったです。」というのがようけおつた。

上 田：でも1年生からみると今年のスタッフはすごいとか思つたんじゃない？

野 田：ええ、みんな自分の仕事に責任を持ってやっておられたと思います。

瀬 尾：1年生にとって良ければそれでいいんじやないか、というのもあるんよ。

吉 谷：でも問題が生じても、上の人の指示を待つだけでみんなで変えていこうとしなかつたり、働かない人のせいでの分誰かが負担しなければならなかつたというのはどうかな。ただスケジュールを与えられるだけでは、一人一人が考えたり話し合つたりしていかないから理解が足りずうまくいかない。

長谷川：ちょっとフォローしとくけど、誤解せんといつほしいんは、スタッフはみんな人間的には善人でええ人なんやで、そやなかつたら自分の時間をさいてまでオリキャンに参加したりせえへん。

上 田：どんなに善人で悪意がなくとも間違つたことを平氣でしてしまううちゅうことかな。

合 田：1年生は次のキャンプ作っていくわけだけどどう思う。

野 田：先輩たちが自主的にあんなキャンプをやつて下さって、自分たちのこと気にかけて下さっていると思うと、キャンプをやりたいという気持ちがでてきます。僕はオリキャンは良い伝統だと思うし、伝えていきたいです。

### ●オリキャンがでかいぞー●

村 田：オリキャンの存在が大きすぎるんですよー。

佐 野：1年生の中にもオリキャンに行かなかつたら、総科からはずれてしまうという恐怖心から参加したって子もいました。

長谷川：入学して一番始めにあるし、準備期間とか考えれば確かに存在の大きな行事なんですよ。

中 川：でもあまりにもオリキャンだけがめだすぎて他の新歓パーティーやソフトボール大会を運営しようという人が少ない。

小 野：もっと人が分散すればいいんだけど。

長谷川：オリキャンのスタッフの人数が多いっていうのは悪くはないと思うんですよ。なんでかいいうと、スタッフにはふたつの役割があつて、ひとつはキャンプの運営、もうひとつは1年生の話し相手で世話をする。

佐 野：そはいっても、仕事をちゃんとしているスタッフからみたら後者ばかりやっている人は邪魔なんですね。

上 田：1年生からみたら、相手をしてくれる先輩がいい先輩になるし。

吉 谷：でもオリキャンで先輩と話す機会を1年生に無理して作ってあげる必要はないんやな



いかな。  
佐 野：総科のいろんな先輩とまじわるというのはすごくいいことだと思います。  
中 川：オリキャンじゃなきゃ先輩とまじわる無いっていう雰囲気が出来てしまっているのがいけないんだよ。

## ●オリキャンのノリ●

瀬 尾：オリキャンでワーッと盛り上がるののはいいけど、バカなままでは成長がない。それで、そんな奴がFellowやつたらどうなる。(一同ざわめく)

もっとバカになるわけよ。(一同大ウケ)  
そして1年生はFellowの話を真面目に聞いてしまう。気の毒なんよ。

上 田：花見からオリキャンまでひとつのノリに支配されている感じや。みんな全体でワーッとやる。そんな所しか見てない1年生はこんなもんやと思って、J101もそんなノリで占めてしまう。そういうノリを嫌う人もいて、いろんな人格が一緒に楽しくやってなんばなのに、ひとつのノリが総科を占めたらアホのまま。ますいろんなものがあってその上にそのようなノリがあればいいけど、底辺がない。なんで今年スタッフが130人も集まつたかというと、総科のノリから外れたくない、行かないといそんなノリから外れてしまうのではというで集まつたのもあるんやないかな。だから、自分から率先して何かしていこうとしない。

長谷川：それは悪いというよりも悲しいな。

野 田：いろんな個性が仲良くなるうちにひとつ色に染められるんでなく、多くの人格がぶつかりあえる場みたいのが欲しいですね。

上 田：そのための130人のスタッフなら分かるよ。いろんな人がいろんな面を見てくれる。

## ●総科のノリ●

瀬 尾：総科には戦前の村社会的な所があるんよ。(笑)それなりに仲よくして面倒もみてもらえるんやけど突出できんのよ。オリキャンでも、スタッフが全体のノリの中で仲のいいもん同士だけで小さい枠の中で行動する。おもいきったこともようせえへん。

長谷川：出る杭は打たれる。

瀬 尾：本来は一学年約200人もおったらいろんな奴からいろんな刺激を受け合って外にはんぱん出て行つたらいいんやけど、それがかえつ

て大勢の平均値みたいなに引っ張られている。

上 田：もっと良くしていこうというよりも、みんながなあなあで、ぶつかりあって上を目指すより安住の地にとどまる。

野 田：みんなが共有できるものを持つつも、自分の自主性や個性とかはしっかりもたんといかん、ということですかね。

長谷川：なあなあになるのは何故でしょう？

上 田：なんにしてもやってもらいたいすぎたってことじゃないかな。自分らは去年ぎょうさんやつてもらって、ものを作つてもらうことに慣れ自分で自分達だけではようせん。友達つくるのも場が与えられて、総科の中にいればすぐ安心で、良い悪いは別として、サークルとか外に出て行こうとしない。

村 田：友達作るのもお膳立てで、すごく便利やけど悪影響もあるよね。

瀬 尾：「総科の中だけで…」っていうけど、総科だけでも十分広いし、俺としては十分。

中 川：俺も他の学部が自分の学部すら目を向けてないで、全学とかいうよりはまず、自分の学部のことをしっかりするのが必要だと思う。特に総科には文理問わざいろんな人がいるし。

吉 谷：ただ、与えられたものだけに満足しているのは良くないよね、俺も総科に足りないのはそこだと思う。

瀬 尾：うへん、総科の中のレベルが低すぎるんな。

上 田：総科の中でも自分が動いていって、ソフトボール大会とか自分達で考えていったらすごい得るものがある気がするけど、自分から動こうとする動きが少ない。結局は総科の中でも小さいグループの中に閉じ込もっているんじゃないですか。

## ●次のキャンプに向けて●

長谷川：話がいろいろなところに広がりましたが、キャンプのトップとしてどんなことを心がけていましたか。



中 川：まず、俺が常に心がけたことは「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、褒めてやらねば人は動かじ」ってことなんだ。どういうことかっていうと、人に自動的に動いてもらおうと思ったら、自分が出来ないことを頼むわけにはいかないから、まずやってみせる。それから、人の上に立つ人の考え方方がわからないからたつていけないから、自分の思い入れをくどくてもいいから語る。理解してくれるまで言って聞かせないといけない。そして、人に仕事をさせる。

村 田：自分でやってしまった方が面倒くさなくて、実際、楽なことはありましたよね。

中 川：確かに楽だけど、それを上に立つ人がやつてしまったら、ますますその人と他の人の差ができるてしまう。どれだけ自分の仕事を減らすかが勝負。仕事がどんどん枝分かれして、ひとりひとりに任せていけばいい。

合 田：仕事を割り振るのって難しかったんですけど、そうやることが必要だったと思います。

中 川：次に褒めてあげるのは当然だけど、任せると放任は違うんだからやらせっぱなしダメ。まず、やらせてみてからのアドバイスとかアフターケアが大切。こういうことをすれば人は動いてくれるんじゃないかな。

長谷川：確かに。ところで、具体的にこれからどうすればいいかが重要な課題だと思うんですが、そのへんいかがでしょう。

中 川：俺がやってきたのは、毎回俺の思い入れを語るという方法なんだ。でも、出席率からみれば成功したとは言えないね。

佐 野：全体の場で言ってもあまり効果はないですよ。

中 川：だからって、ひとりひとりに言うわけにもいかないよね。

長谷川：キャンプはあくまでも新入生のためにあって、それを大、大前提に置くことを忘れて自分のためだけを追及することがあってはいけない。

ないってことですかね。

吉 谷：やっぱり、そういうことをもっとアピールせなあかんかったと思う。  
中 川：うんそうだね。今の状態だったら、実行委員長の俺がやらないやいけないことだけど、こういうことを先輩がそれぞれ後輩に伝えていく形があればいいと思うんだ。

上 田：今年は去年のキャンプでの反省がしっかり引き継がれていませんでした。

長谷川：05生の人が4人だけじゃなく、もっと積極的に参加して下さって、去年はこういうことがあったとか、これはこうするよりもこうした方が良かったとか、これはこうするんやとかを具体的に聞くことが出来ていたらもっと楽に時間を短縮してできたことって割とあるんじゃないですか。

上 田：まあ、自分らだけでゼロから考えてつくるのもある意味おもろかったけど、ちょっと苦労しきたね。

佐 野：1回やった人の言うことですからね。絶対じゃないにしても参考になりますよ。

小 野：言われないとわからなかつたり、気づかないことって絶対にありますからね。こういう話し合いをキャンプ前にもてていれば、スタッフの意識も変わつたかもしませんね。

佐 野：次は08生をむかえるキャンプを07生が中心になって作っていくわけだけど、今回僕らが感じたことや反省はしっかり伝えていきたいですね。



以上のように、総科フレキャンには様々な問題が内在していたことが明らかになったわけであるが、その問題は総科フレキャンだけに限ったものではなく、総科生の学生生活一般にまで拡張するものである。目の前の楽しさに我を忘れるのではなく、問題意識をきちんと持つて、一步下がって冷静に誰のため自分は何をやろうとしているのかをもっと真剣に考えてみるといい。そして、なによりも、自分の思考と他の人の思考をぶつけ合つてより良いものにしようという議論を欠かしてはならない。本気で議論をしていると、時には相手を傷つけたり、自分が傷ついたりすることもあるだろう。しかし、そのような議論を重ねていくうちにより良いものが作られていくし、きついことを言い合つても崩れることのない人間関係や信頼関係が構築されていく。

来年も総科フレキャンが08生を歓迎するために開かれるわけであるが、より良いものをつくるために少しでもこの記事が参考になれば幸いである。

# 東広島市と大学生

渡 邊 博 憲（東広島市市民部長）



## はじめに

広島大学の統合移転、誠におめでとうございます。本年3月に学校教育学部・法学部・経済学部が、西条キャンパスに移転開学されたことにより、念願ありました広島大学の統合移転の全てが完了いたしました。昭和49年の市制施行以来「人間と自然の調和のとれた学園都市」を都市像に掲げ、賀茂学園都市を推進して参りました本市にとりまして、誠に喜ばしいかぎりでございます。広島大学統合移転の先陣を切って、この地に開学されたのは工学部でしたが、昭和54年から始まった造成工事に続き、昭和55年からは広いキャンパスの中央に相似形の4棟の校舎が建設される状況を「これが広大の校舎か」と市民はもとより我々職員も驚きと期待の中で見守ってきました。あれから早いもので16年の歳月が経過いたしましたが、あの殺風景だった252haの広々としたキャンパスに整然と立ち並ぶ各学部のモダンな校舎や管理棟を見ますとき、昭和48年の『広島大学西条へ統合移転決定』以後の経過を知るものとして感慨深いものがあります。

## 東広島市のよいところ・わるいところ

現在、学生・教職員併せて1万4千人とお聞きしていますが、広大なキャンパスの中で講義の合間にみなさんは毎日何を考えておられるのでしょうか。先日、西条のある飲み屋さんで出会った学生さんから、こんな話を聞きました。

「交通の便利が悪い」「買い物（スーパー）が遠い」「書店がない」「近くに食堂や喫茶店がない」「キャンパスの周辺が暗く自転車では帰れない」など親元を遠く離れて西条で一人暮らししてみての率直なご意見だと思います。私も、少々お酒が入っていましたので広島弁で反論・言い訳はしたものの、最後には3人の学生さんに圧倒されてしまいましたが、こうして夜の街で全国から来ておられる学生さんと気軽に話ができるなど、西条も活気あふれる街になっています。

皆さんにとって東広島市は学生生活を送るためには、少々不便かもしれません、西条市街地から大学まで続くプールバル、ウグイスやヒバリの鳴くキャンバス、周辺に広がる田園風景、遠くに霞む緑の山々（松枯れの山林）をバックに点在する赤瓦の民家、西条盆地の特有の景観が皆さんをお待ちしていました。この西条キャンバスを囲むすばらしい自然環境のなか、大学生活を有意義に過ごしていただきたいと思います。

## あなたは責任ある「世帯主」

皆さんには聞きなれない言葉かもしれません、市外から本市へ転入手続きをされ学生アパートや学生寮などで生活をされている方は、「住民基本台帳法」に基づき市役所市民課に住民基本台帳が整備されています。住民基本台帳には、あなたの氏名・生年月日・男女の別・戸籍の表示・前住所・転入後の住所・転入年月日などの記載がされていますが、この住民基本台帳の「世帯主」の欄には、あなたの名前が登載されており、広辞苑によりますと「世帯の中心になる者」とあります。

大学を卒業され就職や故郷へ帰られるまでは、一家の責任者=世帯主としての自覚を持たれると共に責任ある行動をとっていただきたいと思います。社会的不安な事件が続出している今日、また、今後市内で生活していくためにも、あなたの住所地を証明できるものが必要ではありませんか。ぜひ、本市へ転入届けをしていただきたいと思います。

## 豊かな自然環境の確保

東広島市は山林・農地が広い面積を占め、身近に自然環境に接することができ、河川や多くのため池、湿地などには希少な植物・動物の生息が確認されているほか、山林では豊富な草木の開花が観察されるとともに、バードウォッチングも盛んに行われるなど、都市近郊にありながら豊かな自然環境を備えた地域でもあります。一方、本市は黒瀬川・瀬野川・太田川・沼田川

などの最上流部にあり、水資源に恵まれない地域であることから数多くのため池を築き、農業を主体とした地域の環境が形成されており、大学周辺にある多くのため池は現在も貴重な農業用水として利用されています。しかし、急激な人口の増加や都市化の進展、生活形態の変化にともないため池や河川の汚濁が進み自然環境が損なわれようとしているのも事実です。

こうしたことから本市では、良好な環境の確保と美化の推進を図るために、平成22年（西暦2010年）を目標年次とする「東広島市環境管理計画」を策定しました。この管理計画では、4つの行動計画と計画を進めるための21の作戦を設定していますが、今年度はこの計画に基づき緊急性の高い「家庭ごみの有料化」や「不法投棄（ポイ捨て）防止条例」の制定などに着手し、行政、事業者、市民それぞれの役割分担の具体化に向けた取り組みを予定しています。現在、本市のごみ処理は1市5町で構成する賀茂広域行政組合において処理しておりますが、可燃ごみの量が年々増加傾向にあることから、これら増加するごみの適正処理と清潔で快適な生活環境づくりのため、6種分別収集を行っています、ごみの資源化、プラスチック類などの無害処理、有害ごみの適正処理など、環境保全と埋め立て地の延命化、資源の有効利用を目的とした分別収集です。

## ごみに責任をもつて

皆さんが毎日出されるごみは分別されていますか、燃えるごみの中に「ビンやカン」が混ざっていないませんか、「ごみステーションに出しておけばなんとかなる」と思っておられるなら、あなたの考えは間違っています。「燃えるごみ」の中に、ビン・カンプラスチックなどが混ざっているごみ袋は、収集できずに残され、アパート管理人の方や地域の世話人の方によって「再分別」という手間がかけられています。このような周囲の方のご苦労をあなたは知っていますか。「混ぜればごみ、分ければ資源」と言われています。みなさんの毎日の正しいごみ分別が環境に対する優しい心使いに結びつきます。

もう一言苦言を！先日「散乱ごみ追放キャンペーン」を、広島大学構内や周辺道路を中心として実施いたしました。大学関係者をはじめ多くの市民や事業所の方のご協力をいただき所期の目的を達成することができましたが、大学構内の散乱ごみの多さと、各学部の駐車場に捨ててあっ

た「タバコの吸い殻」「空きカン」には、参加者一同ア然としました。本市では毎月第二日曜日を「環境美化の日」と定め地域や家庭、事業所などに全市一齊門前清掃を呼びかけています。皆さんで一考され大学構内でも実施していただきたいものです。

## さいごに

最後に皆さんにお願いがあります。最近市内において、広大生の交通事故が激増しています。こうして死亡事故などがあったときは、住所地である本市から、皆さんの本籍地（両親のもとに）に、死亡の通知をすることになりますが、故郷では思ってもいなかった、悲しい知らせとなり、本市としても一番つらい、悲しい事務であります。このようなことのないよう、日頃から安全運転を心がけるとともに、健康管理には十分注意して、本市での学生生活を楽しく過ごしていただき、この東広島市を皆さん的心の故郷にしていただきたいと思います。  
(西条での生活、寂しくなったらいつでも声をかけてください、西条の酒を飲みながら故郷の話をしませんか… あなたの親父から)



# 地震

## 1. 西条に地震が起こる!?

広島の地震は震度3以下のものが多い。私も20年広島に住んでいて、大地震というもの経験したことがない。しかし皆さん、「広島にも実は大地震が、45年くらいの周期で起こっており、もうそろそろ来てもおかしくない」という噂を最近聞かれたのではないかだろうか（この噂元は、雑誌「ぴーぶる」だと思われる）。この噂の真偽を調べるために、地震に詳しいある教授のもとへ行った。そしてとても貴重な資料をコピーさせてもらった。その資料が表1、図1である。これを見て頂くと、1600年以降、数10年から100年に1回、M6以上の大地震が起きていることが分かるだろう（噂は本当のようだ）。震源地は、芸予諸島の周辺であり、呉や広島市などは津波の影響をかなり受けることになる。

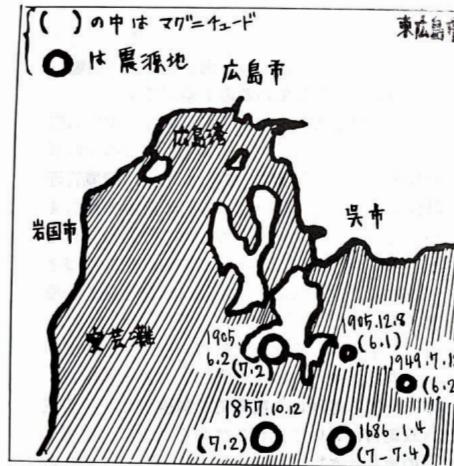
さて、西条はどうだろう。地盤は、広島市と比較すると、かなりよいと思う。しかし、その上に建っている建物が、全てM6以上の地震に耐えられるわけではない。皆さん、ここで危機感を持って、地震が起きたらどのように対応すればよいのかよく考えましょう。

（編集委員 武田淳子）

### 広島付近をおそった主な地震

発生年月日	時刻	震央	マグニチュード	被　　害
1649. 3. 17 (慶安2年)	午刻	安芸伊予	7.0	松山城・宇和島城の石垣や堀が崩れ、民家も破損。広島では侍屋敷町屋少々潰れ、破損が多かった。
1686. 1. 4 (貞享2年)	巳下刻	安芸伊予	7-7.4	広島県中西部を中心に家屋などの被害が多く、死者があった。宮島・萩・岩国・松山・三原などで被害。
1733. 9. 18 (享保18年)	巳中刻	安　芸	6.6	奥部に被害、因幡でも地大いに震う。京都・池田・讃岐で有感。
1788. 2. 14 (安永7年)	卯　刻	石　見	6.5	那賀郡波佐村で石垣崩れ、都茂村で落石、安芸より備前まで強く震い、筑前で有感。
1812. 4. 21 (文化9年)	戌上刻	土　佐		高知で土蔵落ち、瓦落下、堀の損壊があった。中村の方が強かったともいう。
1857. 10. 12 (安政4年)	戌中刻	伊予安芸	7.25	今治で震家3、死1。宇和島・松山・広島などで被害、郡内で死4。
1905. 6. 2 (明治38年)	14:39	安　芸　灘	7.25	「芸予地震」：広島・呉・松山付近で被害が大きく、広島県で家屋全壊56、死11、愛媛県で家屋全壊8。
1949. 7. 12 (昭和24年)	1:10	安　芸　灘	6.2	呉で死2、壁の亀裂、屋根の落下など小被害があった。

出所) 理科年表(1990年版)、丸善



## 2. 広島大学周辺での地震による被害予想と心構え

海 堀 正 博 (自然環境研究コース助教授)

安芸灘・伊予灘で起こると言われている地震が、広大周辺に震度6以上の揺れを発生させるとは思えないのですが、兵庫県南部地震で阪神大震災が発生したときのことを想起しますと、何が起きるか分かりません。そこで、広大周辺ではどういう事態が予想されるのか、震度5以上の揺れを仮定しながら、話を進めていくことにします。

### 地震はいつ発生してもおかしくない

地震が発生したとき、私達のいる場所がどこなのかは全く予想がつきません。たとえば……



### ●教室で講義中であったとすると、

固定されていない机や椅子、ロッカなどは、震度5程度で、移動したり、ずれたり、倒れたりする。震度6程度になると、壁や天井に取り付けられているモニター・テレビなどの重い物はほとんど落ちる。したがって、落下物や踊り出すような物体から身を守れるよう注意する必要があります。



### ●研究室で研究中、オフィスで仕事中、図書室で勉強中であったとすると、

震度5程度で、書棚の本や棚の中身がかなり落下する。テレビやエアコンなどが移動したり、ずれたり、倒れたり、取り付けの悪い物がはずれて落下したりする。震度6になると、非常にすわりの良い家具類まで倒れたり、大きく崩れたりするし、壁や天井に取り付けたものはほとんど落ちる。従って、やはり落下物や倒壊物の直撃を免げないような注意が必要です。



### ●実験室で実験中であったとすると、

実験器具を入れた陳列棚なども、震度5程度で、移動したり、ずれたり、倒れたり、扉が開いたり、収容物が飛び出したりする。ガスコンロやガステーブル、ストーブなどの火気器具も簡単に移動したり、倒れたりする。鎖止めのないポンペは転倒し、鎖止めの位置の高い物は抜け出して転倒することがある。したがって、火災の発生と割れたガラス片にも注意する必要がでてきます。